

学術団体名：一般社団法人 日本物理学会

学術刊行物の名称：Journal of the Physical Society of Japan / JPS Conference Proceedings

事業期間：平成26年度～平成30年度

1 取組の概要

◇ 取組内容の特徴と目的、意義及び方法

Journal of the Physical Society of Japan (JPSJ)は電子化出版の体制をいち早く整備してきたが、2014年に新プラットフォームに移行した。本取り組みでは、新プラットフォームの整備・改良に加え、編集体制および宣伝・広報活動を総合的に推進することにより、JPSJの掲載論文の質を向上させ、さらに、国際会議プロシーディング用のオープンアクセス誌 JPS Conference Proceedings (JPS Conf. Proc.)の刊行によって、我が国の物理学分野の研究成果の国際的なビジビリティを大幅に増大させることを目指している。

◇ 応募時に設定した取組の目標・評価指標

A 新プラットフォームの改良と JPSJ のビジビリティ向上

高度な検索エンジンの活用，モバイル対応，COUNTER 対応の充実を図る。

B 編集体制と投稿・閲読体制の強化

Head Editor (2013年：14人，2016年：20人)，外国人編集委員(2013年：4人，2016年：10人)，外国人閲読者(2013年：40人，2016年：100人)。閲読者顕彰制度の創設。

C 著者および読者に対するサービスの向上と広報・宣伝活動の強化

引用通知・Author Connect サービスの導入，News and Comments の刊行物化，米国物理学会等における展示。

D JPS Conf. Proc. の刊行 (2014年創刊，2016年までに年3巻出版を目指す)。

E 全体的目標 2012年実績 [投稿数(830)，掲載数(527)，ダウンロード数(380,158)] を 2016年には20%増となることを目指す。

2 目標の達成状況

◇ 現在までの目標の達成状況

A 上記計画を達成し，さらに Altmetric score を導入し，OPEN SELECT 論文に CC BY を適用した。

B JPSJ および JPS Conf. Proc. の投稿審査システムの改良を実施し，2016および2017年度各10名の閲読者を顕彰した。2016年における編集体制は Head Editor (18人)、外国人編集者(13人)、2015年における外国人閲読者(63人)であった。

C 予定通り実施した。

D 刊行実績[2014年(3巻)，2015年(5巻)、2016年9月まで(2巻)]。

E 2014年実績 [投稿数(739)，掲載数(494)，ダウンロード数(327,966)]。2015年実績 [投稿数(669)、掲載数(402)，ダウンロード数(358,394)]。

◇ 今後の計画

投稿論文数等を20%増やすという目標に対して減少している現状を打開するため，掲載料金を原則(10ページまで)無料化することを決定し，2016年8月1日から実施した。OPEN SELECT 論文の普及と合わせて広報活動を強化することにより，当初設定した目標の達成を目指している。

